

## 2022 年度入試 特別選抜 口述試験出題趣旨

### (社会人・他学部出身者選抜)

この口述試験は、①幅広い知見によって支えられた分析力と論理的思考力、思考の過程および結果を的確に表現する論述力を受験者が有するかどうか、さらにその能力を前提に、②正義と権利に敏感で、社会・経済に対する強い関心を持ち、そこで生じている問題を発見し、これを適切に処理することができる基本的能力を受験者が有しているかどうかを判定する目的で実施される。

口述試験は、午前午後各 2 グループに分かれ、コロナ禍のためオンラインで行われた。いずれも受験者一人に対し課題文を提示し、それに関連する 2 つの問題について質疑応答を行う形で上述の能力の判定が行われた。課題文は、(1) 矢部正秋『プロ弁護士の思考術』128-132 頁 (PHP 研究所、2007 年)、(2) マイケル・サンデル『実力も運のうち 能力主義は正義か?』(早川書房、2021 年) Kindle 版 No. 2683-2751、(3) デレック・ヒーター『市民権とは何か』(岩波書店、2012 年) 180-192 頁、(4) 釘原直樹『人はなぜ集団になると怠けるのか 「社会的手抜き」の心理学』(中公新書、2013 年) Kindle 版 No. 1019-1078 を、原文を一部省略・修正して使用している。

口述試験で問われた 2 問のうち、第 1 問はいずれも課題文の読み取り、要約、その内容の適切な表現を求めるものであり、上述の①の能力を判定するものである。第 2 問は、第 1 問を踏まえた上で、自己の見解を論理的に表現することを求めるものであり、上述の①に加えて②の能力を判定するものである。いずれの問題も、法律学にかかる特別な知識の有無や法律の条文を解釈する能力等を評価の対象とするものではない。

### (5 年一貫型教育選抜)

本法科大学院の入試は、①幅広い知見によって支えられた分析力と論理的思考力、思考の過程および結果を的確に表現する論述力を受験者が有するかどうか、さらにその能力を前提に、②正義と権利に敏感で、社会・経済に対する強い関心を持ち、そこで生じている問題を発見し、これを適切に処理することができる基本的能力を受験者が有しているかどうか、さらに③法学の基本的な科目(法学未修者コースの 1 年次で開講されている科目に相当)について既に十分な知識を有しているかどうか、を判定する目的で実施される。

口述試験は、午後に 4 グループに分かれ、コロナ禍のためオンラインで行われた。いずれも受験者一人に対し、法曹コース在学中の成績及び出願書類に基づき質疑応答を行うものであり、これらの成績及び書類で示された受験者の上記①から③の各能力をさらに追加的に確認するために実施されたものである。